

京都府生協連ニュース

<第62回通常総会特集>

2015年8月5日・No.86(通算152号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

第62回通常総会開催

～全議案を満場一致で可決、総会アピールを採択～

6月16日(火)、コープ・イン・京都で開催



<ご来賓>



京都府山田啓二知事代理
京都府府民生活部 西川 定彦部長



開会のあいさつをする
上掛 利博会長理事



議案提案をする
横山 治生専務理事(当時)

京都府生協連第62回通常総会報告

6月16日（火）午後1時30分から、コープ・イン・京都2階202号室で、京都府生活協同組合連合会第62回通常総会を開催しました。

総会の代議員総数は44人で、本人出席32人、委任出席4人、書面出席6人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、87人が参加しました。

上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府府民生活部・西川定彦部長（京都府山田啓二知事代理）から、ご祝辞をいただきました。

オブザーバーとして、日本生協連関西地連・辻祥行事務局長はじめ、17人が参加しました。地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などからいただいた83通の祝電・メッセージを酒向事務局長がご紹介しました。

横山治生専務理事（当時）が第1号～第6号議案を提案し、今西静生特定監事が監査報告をおこないました。

代議員・オブザーバーから10件の発言がありました。横山治生専務理事（当時）が討論のまとめをおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。

さいごに、小野留美子理事が総会アピール「平和とよりよい生活のために、府内のすみずみに生協の事業と活動を展開していきましょう！」の採択について提案し、拍手で確認しました。

総会後に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に上掛利博氏、専務理事に高取淳氏、特定監事に今西静生氏が就任しました。



新しく選任された
高取 淳専務理事



監査報告をする
今西 静生特定監事



総会アピールを提案する
小野留美子理事

＜祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた＞（順不同・敬称略:6月16日現在）

衆議院議員自由民主党	田中英之	参議院議員民主党	福山哲郎	京都府農業協同組合中央会会長	中川泰宏
衆議院議員自由民主党	宮崎謙介	参議院議員日本共産党	井上さとし	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔
衆議院議員自由民主党	安藤ひろし	参議院議員日本共産党	倉林明子	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合幹夫
衆議院議員民主党	泉ケンタ	京都市長	門川大作	京都労働者福祉協議会会長	橋元信一
衆議院議員民主党	前原誠司	京都府議会議長	植田喜裕	京都市社会福祉協議会会長	村井信夫
衆議院議員日本共産党	こくた恵二	京都府社会福祉協議会会長	位高光司	弁護士	大河原としか

■全議案が満場一致で可決されました

議 案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2014年度活動報告・決算関係書類等承認の件	41	0	0	41
第2号議案 2015年度方針・活動計画および予算決定の件	41	0	0	41
第3号議案 2015年度役員選任の件	41	0	0	41
第4号議案 2015年度役員報酬決定の件	41	0	0	41
第5号議案 定款の一部変更の件	41	0	0	41
第6号議案 議案決議効力発生の件	41	0	0	41

※出席代議員は合計44人（本人出席32 委任出席4 書面出席6）、うち議長1人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2015 年度役員体制】（6月16日現在） *新任

＜会長理事＞ 上掛 利博（員外）	＜理 事＞ 崎濱 誠（京都教育大学生協専務理事）*
	坂本真有美（生協コープ自然派京都理事長）
＜副会長理事＞ 中森 一郎（大学生協京都事業連合専務理事）	柴田 弘美（京都生協副理事長）*
畑 忠男（京都生協理事長）*	末廣 恭雄（京都府医大府立大生協専務理事）*
	田中 弘（京都医療生協専務理事）
＜専務理事＞ 高取 淳（員外）*	長 誠一郎（京都高齢者生協くらしコープ専務理事）*
	堂本 吉次（やましろ健康医療生協専務理事）
	山川 修司（全京都勤労者共済生協専務理事）
＜常任理事＞ 中島 達弥（京都大学生協専務理事）*	＜特定監事＞ 今西 静生（京都府庁生協理事）
本多 浩（京都府庁生協専務理事）	
＜理 事＞ 岡田 照雄（京都市民共済生協専務理事）*	＜監 事＞ 石井 聡（京都生協常勤監事）
小野留美子（乙訓医療生協専務理事）	五藤 実（同志社生協専務理事）*
上総紫香子（生協生活クラブ京都エル・コープ副理事長）	
川村 幸子（京都生協副理事長）*	

【理事・監事を退任されたみなさん】（順不同）

＜理 事＞大塚 正文さん・鯉迫 裕子さん・坂本 茂さん・鯉江 賢光さん・沼澤 明夫さん・日岡 豊子さん・
横山 治生さん・渡邊 明子さん
＜監 事＞酒井 克彦さん

【事務局】

事務局長 酒向 直之

事務局担当 川端 浩子

事務局担当 岡本 朋子



■10 人の代議員・オブザーバーから発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

1. 京都生活協同組合 川瀬 和栄 代議員

「2014 年度の京都生協の特徴的な取組みと京都府生協連への期待」



創立 50 周年記念の取組みでは、「健康・食生活」「子育て」をテーマにした組合員学習会の開催。宅配事業の商品カタログ紙上で組合員によるメッセージリレー「わたしと生協」を実施。「コープ商品総選挙」をおこない、上位 50 品目を記念価格

に設定し利用普及をはかったことなど事業と活動で様々な取組みをおこなった。店舗では、コープ二条駅・ながおか・きぬがさ・いわくらを改装した。閉店したコープ東宇治店の周辺を対象に「お買い物サポートカー」を導入した。行

政、諸団体と連携して取り組んでいる「見守り活動」は、新たに 5 つの自治体などと協定を結び、18 自治体に広がった。京都府内全域に広げていくことをめざしている。東日本大震災支援活動では、日本生協連と連携した福島子ども保養プロジェクト募金に取り組んだ。継続しておこなっている組合員と役職員によるボランティア「海の虹プロジェクト」は今年で 3 回目を迎えた。核不拡散条約 (NPT) 再検討会議には、組合員代表 2 人を派遣した。今年は、終戦 70 年の節目の年、集団的自衛権の行使容認の閣議決定や安全保障法案など、平和をおびやかす動きが心配。平和や TPP 問題など社会的な課題に対して組合員が主体的に考え、判断ができるように学習会等を開催していきたい。そのためにも、京都府生協連のリーダーシップに期待したい。

2. 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 山本 重美 代議員

「支部での活動を知ってもらうために」



私自身が携わっている洛西支部の支部活動について報告する。2014 年度は、年間を通して、牛乳の利用普及と「竜おうみ米」登録のおすすめに取り組んだ。下期には、消費材への理解を深めることと仲間づくりを広げていくことを目的に、「おしゃべりカフェ」を 6

回開催した。毎回の「おしゃべりカフェ」では、おすすめ消費材の試食もおこなった。しめくくりの支部大会には、16 人の組合員参加があった。イベントの参加者が増えた要因は、1 つ目に、イ

ベントごとに表紙の色を変えた手書きの申込み用紙を 2 回配布したこと、2 つ目に、イベント会場を身近なところに設けたことで、参加のきっかけとなり、参加者が増えたのではないかと考えている。支部委員の減少で支部活動の継続が厳しい状況でしたが、支部委員の募集案内に、支部活動の現状や支部委員の思いを率直に掲載し配布したことで、新たに 4 名が増え、活動を継続することができた。組合員は、自分の知りたい情報や興味あることにはアンテナをはって広報物などを見ていることがわかった。2015 年度は、委員会活動をやってみたいと思われる組合員のアンテナに触れるように、視点も変えながら活動をおこなっていく。

3. 生活協同組合コープ自然派京都 服部 五月 代議員

「2014 年度の生協コープ自然派京都の取組み」



2014 年度に開催したイベント数は 63 回 (託児付き 33 回、親子参加 30 回)、参加人数は約 650 人。年間を通じて食品添加物についての学習などを重点的に取り組んだ。手作りウインナー

教室と添加物実験、そして「コープ自然派 はじめてフェスタ」について報告する。ハム、ウインナーには様々な添加物が使われている。水質検査用試験薬を使い、亜硝酸塩濃度を測定する実験をした。メーカーと共同開発したコープ自然派スタイルの商品は変色しなかったが、比較した商品はピンク色に変色し、亜硝酸塩が使われていること

がわかった。次に、うがい薬などに含まれているヨウ素液と反応するでんぷん濃度を測定する実験をおこなった。コープ自然派スタイルの商品は変色しなかったが、比較した商品は紫色に変色し、原材料に加工でんぷんが含まれていることがわかった。実験のあとの手作りウインナー教室では、コープ自然派あらびきウインナーと同じ無添加ウ

インナーを作り、試食した。創立以来からの念願だった「コープ自然派 はじめてフェスタ」をみやこめっせで開催した。約1,000人が参加した。生産者、組合員、役職員がいっしょに力を合わせ楽しい一日をすごした。これからも楽しいフェスタを開催していきたい。

4. 京都大学生協同組合 角田 翔 代議員 「京大生協の組織活動のまとめ」



中期計画（2015～2017）がかかげている6つのビジョンに沿った活動について報告する。第1に、「健やかなキャンパスライフのために」では、健康な食生活のための提案、学生総合共済、学生賠償責任保険の加入促進をおこなった。第2に、「より充実した学びのために」では、組合員の勉学研究生生活の実態把握と貢献のためにより役立つ取組みをおこない、学生・院生が様々な切り口で交流できるようにした。第3に、「大学生活を総合的・包括的サポート」では、私生活への支援ということで、「～おしゃれの“い

ろは” おしえます～」や新入生歓迎会などを開催し、学内のコミュニケーション活性化や仲間づくりのサポートをおこなった。第4に、「京都大学との緊密なパートナーシップ」では、「ホームカミングディ・中央キャンパス祭」の開催や様々な大学行事の運営サポートをしている。総長グズプロジェクトを立ち上げ商品開発を検討中。第5に、「地域と地域社会に向けて」では、吉田地域と連携して吉田今宮社神幸祭でみこし行列に参加。環境活動では「エコるど京大」に運営協力。地産地消では、各食堂で京都の地産地消フェアを開催した。第6に、「健全な組織・健全な事業体となるために」では、総代交流会を開催し、生協職員や組織委員会のメンバーと活発に話し合う機会を設けている。

5. やましろ健康医療生活協同組合 小松 正明 代議員 「やましろ健康医療生活協同組合設立20周年記念の取組みについて」



昨年設立20周年を迎えた。設立の直接のきっかけは、宇治市内にあるレーヨンを製造している工場で発生した二硫化炭素中毒症による労災認定とその裁判闘争、損害賠償請求訴訟を通じて、働くものの立場に立つ医療機関の必要性が期待されたことにある。20周年記念誌の発行をはじめ、組合員とともに、様々な取組みをおこなった。健康まつりには、1,000人を超える来場者があり、理事長の河本一成医師が指導したスタッフによる社交ダンスは拍手喝采だった。市内の大

型スーパーの店頭で、街かど健康相談会を開催した。記念レセプションには、100人をこえる参加でお祝いすることができた。東神戸診療所の郷地秀夫先生の原発学習会では、内部被爆の恐ろしさを学んだ。フラワーアレンジメントの作品展、あさくら亭落語会など、どれもたくさんの組合員参加で開催できた。設立当初から平和の問題には特に力を入れている。昨年の集団的自衛権行使容認の閣議決定には、抗議の署名活動を近鉄大久保駅前でおこなった。原水爆禁止世界大会には毎年代表派遣をしている。代表派遣報告会は、京都フィルハーモニー室内合奏団を迎えてサマーコンサートとして開催した。今年の健康まつりでは、核不拡散条約（NPT）再検討会議参加の報告会もおこなった。

6. 乙訓医療生活協同組合 水野 晃 代議員 「地域訪問行動について」



昨年は30周年でさまざまな取組みをした。その中で、地域訪問活動について紹介する。地域訪問活動は毎年取り組んでいるが、2013～2014年度は全世帯を訪問することを目標にした。組合員数6,423人5,400世帯で、10支部ある。職員、理事、地域の支部組合員、運営委員などが協力して、月に1度、1つの支部地域を訪問することを決めた。「組合員さんお元気ですか？」と訪問し、出資金増資のお願い、生協（診療所）は利用しているが、組合員になっていない人への組合員加入のお誘い、生協利用の呼びかけな

どを目的にして訪問活動した。職員と組合員で地域の声をきき、地域に信頼される生協をめざして取り組んだ。診療所には、看護師、放射線技師などの多彩な職種の職員がいる。この方たちと一緒に訪問すると、地域の組合員に喜ばれ、いろんな意見や感想が率直に聞け、出された声を事業に活かすことができる。支部でも独自に訪問活動がおこなわれているが、職員とともに訪問することで対話がすすんだ。訪問活動がすすまない支部からは、職員が同行することで、続けていけそうだと思ってもらえた。今年度についても、組合員全世帯の50%を目標にして訪問活動に取り組む。健康いきいき教室の取組みも継続していく。

7. 京都府庁生活協同組合 小西 重和 代議員 「3年連続赤字脱出に強い覚悟で！」



府庁生協が直面する最大の課題は、3年連続の赤字からの脱出である。3年で1,600万円を超える大きな赤字をだした。そのため法定準備金を取崩したことで内部留保が減少している。もはや後が無い状況にある。このような厳しい状況となった一番の原因は、毎年続く利用の減少にある。府庁生協はここ何年か、「『あってよかった』と言われる府庁生協をめざして」をメインスローガンに掲げている。このスローガンのもと、存在価値を組合員に感じてもらえる生協としての事業をすすめることこそが、赤字脱出のカギだと考えている。厳しいのは、組合員に喜んでもらいながらも、利用が全体とし

ては大きくなく、不採算部門となって整理縮小せざるを得なくなっている部分があることだ。しかし、生協そのものが存続できなければ、組合員に役立つことはできないので、思い切った改革は避けては通れない。

府庁生協は今年度、①組合員ニーズに一層応えられる事業展開、②安定した黒字経営ができる体質への改革、③府職員の福利厚生を担う立場と府行政との関係重視、④「食の安心・安全、環境、平和、災害復興支援」など生協の理念を大切にする、⑤組合員が主人公の生協活動をつくる、⑥生協職員が団結・協力して取り組めるよう努力、の6点を基本方針とし、魅力ある生協事業の展開で赤字脱出を実現すべく努力する覚悟である。

8. 全京都勤労者共済生活協同組合 松本 浩 代議員 「全京都勤労者共済生活協同組合(全労済京都府本部)活動報告」



組合員との接点を大切にしたい学習会やセミナー、イベントなどの開催を中心に報告する。労働組合、共済会などの団体扱いで加入されている組合員を対象にしてセミナーを開催している。一つ目に、生活保障プ

ランナー研修は、労働組合の役員が、税金、社会保障、金融商品などについて学んでいただき、組合員の相談に直接のことができるようになることを目的にした研修である。二つ目は、事務・実務担当者を対象にした研修会で、現場で推進している職員を対象に、商品の制度変更内容などについて学ぶ研修である。三つ目は、地区推進委員会

や職場推進委員を対象にしたセミナーで、府内の北部、中央、南部の各地区の要望を活かして開催している。次に、地域の組合員向けセミナーは、労働組合などの団体扱いではなく、直接加入された組合員を対象にしているもので、全労済セミナーとして、国崎信江先生を講師に迎えて、女性の

視点で防災に関する知識を深めるセミナーを開催した。学習会、イベント以外では、「環境保全活動」「子どもの健全育成活動」「防災・減災活動」の3つの社会貢献活動を実施している。最後に、火災共済の制度改定にあわせて、全組合員に建物構造確認をおこなっている。

9. 京都市民共済生活協同組合 岡田 照雄 オブザーバー 「市民共済の取組み結果と今後の取組みについて」



設立から5年目を迎える。市バス、地下鉄、市民しんぶんなどへの広告掲載などおこない、知名度を向上させることを主眼において事業を推進してきた。その結果、新規加入者が徐々にではあるが増えてきたが、組合員の高齢などによる死亡や他府県

への転出などで脱退もあり、組合を取巻く環境は厳しい状況にある。今年度の重点は、①新規組合員の加入促進として、前年度実施したマンションなどへのポスティングの結果と実績にもとづき分析、検証し、対象地域、対象マンションを拡大して、より効果的な働きかけをおこ

なう。②取扱商品の拡大として、生命共済、医療共済についても取扱商品の拡大を図る。③危機管理体制の強化として、個人情報の取扱い、管理を日頃から徹底し、セキュリティーの強化を図る。④組合員のための福利厚生事業の導入として、組合の指定する施設に対して組合員証の提示等により、施設利用料金の割引制度を検討する。⑤職員研修の充実として、幅広い共済商品知識の習得をはじめ、コンプライアンスの徹底、個人情報の漏洩を防止するための研修の充実を図る。上記の5つの取組みを強めることで、事業の安定運営に必要な契約件数2万2,500件の達成に向け、役職員一同が、京都市民の生活の安定向上を図るための組合であることを自覚し、全力を挙げて取り組む。

10. 京都高齢者生活協同組合くらしコープ 水口 武夫 代議員 「くらしコープのこれまでとこれから」



昨年7月15日に府連に加入した。組合員数は、設立時の433人が、今年5月に700人に達した。2002年4月にくらしの助け合いをひろげ、安心と輝きの高齢社会をつくろうということで、法人格をもたない京都高齢者協同組合くらしコープを設立した。2013

年10月に生協設立し、2014年2月に生協法人として認可されるまでの期間は、介護事業をおこなう有限会社くらしコープと生活支援事業をするNPO法人くらしコープ、法人格を持たない京都高齢者協同組合くらしコープの3つの組織形態で続けてきた。現在は、仕事おこし分

野は、NPO法人くらしコープがおこない、生活支援に属することは生協事業でおこなうという棲み分けをして活動している。4月からの介護報酬の改定で、事業的には厳しくなることが予測される。2015年度は、①組合員数は、1,000人を目標に取り組む。②昨年から検討を進めている共同墓の建設、③共同住宅やシェアハウスなどの住まいの問題にも対応ができるように、「住まいづくり研究会」を立上げ検討をすすめる。そして④新規事業所の開設などをめざしたい。地域活動については、支部の下に班をつくり、班活動をおこなう。毎月発行している機関紙「紫式部」の配布部数を広げること、手配り率についても高める。平和な社会やくらしを守る取組みについても強めていく。

■総会アピールを採択しました

小野留美子理事が総会アピールについて提案し、拍手で確認しました。

京都府生活協同組合連合会第 62 回通常総会アピール

平和とよりよい生活のために、
府内のすみずみに生協の事業と活動を展開していきましょう！

政府は 2014 年 7 月 1 日に憲法解釈を変更して集団的自衛権行使容認の閣議決定をしました。今年 5 月 14 日には、自衛隊を「いつでも」「どこへでも」派遣できるようにするための新たな安全保障法制関連法案を閣議決定しました。京都府生協連は昨年の集団的自衛権行使容認の閣議決定に対し「立憲主義の考え方に反し、認めることはできません。」と意思表示しました。今回の安全保障法制関連法案は、戦後日本がとってきたこれまでの安全保障政策の大転換となり、今国会での早急な議論をすすめることについて改めて反対します。今年は、被爆・終戦 70 年を迎えます。生協は、戦後、平和とよりよい生活をもとめて活動してきました。この節目の年にふさわしい活動を展開していきましょう。「核兵器も、戦争もない世界」の実現に向けて、全国の生協の仲間や他の諸団体とともに「平和をつくる」取組みを一層広げていきましょう。

2014 年の消費税率の引き上げと急激な円安による消費者物価の上昇に加え、年金、医療、介護、子育て支援などの社会保障制度の後退は、組合員・消費者や地域経済にとって大きな影響を与え、私たちのくらしは一層厳しさを増しています。また、総人口の減少と東京への一極集中、少子高齢社会、単身世帯に加え、低所得者の増加による貧困問題が深刻化しています。また、高学費と貧弱な奨学金制度のもとで学業にも深刻な影響をもたらしています。協同の組織である生協の役割発揮が、地域でも、職場でも、学園でも、求められています。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から 4 年が経過しました。被災地の生活環境は厳しい状況が続いています。引き続き、全国の生協とともに力を合わせ、被災地の生活再建と避難生活の充実にむけた支援が求められています。

政府は多数の国民が不安と考えている原子力発電の早期稼働を計画しています。福井地方裁判所は、2014 年 5 月、大飯原発 3、4 号機の運転を認めない判決を出しました。今年 4 月には、高浜原発 3、4 号機の再稼働を差し止める仮処分決定を行いました。原発に頼るのではなく、再生可能エネルギーを中心とした安全で環境にやさしいエネルギー政策への転換が私たちの願いです。

会員生協の組合員数はのべ 72 万 5 千人に広がりました。たとえば、地域生協の宅配事業では週に 18 万人、店舗で 1 日 3 万 4 千人、大学生協では 1 日 11 万 5 千人が生協を利用している等、購買、医療、共済、福祉等の事業と活動を通じ、様々な分野で組合員のくらしへの役立ちを高めています。

私たち生活協同組合は、組合員の声にもとづきながら、地域社会の一員として、行政や他の協同組合組織、NPO など諸団体とのつながりを一層強めていく必要があります。よりよい生活と安心して暮らせる地域づくり、人が人として大切にされる平和な社会をめざして、府内のすみずみに生協の事業と活動を展開していきましょう。

京都府生活協同組合連合会は、府内における 21 の会員生協の連合組織として、その役割を発揮してまいります。

2015 年 6 月 16 日
京都府生活協同組合連合会